

## 8つのムダ



## ワード解説

ムダに気づくためには具体的にどのようなムダがあるかを知ることが役に立ちます。自分ではムダだと気づいていなくても、ムダの種類を知ることによって「あっ、これはムダなんだ」と気づくことができるようになるからです。生産現場には8つのムダがあるといわれています。これを参考にムダを知り、「なぜこれがムダなのか」と考えることでムダに気づくことができるようになります。

## 生産現場の「8つのムダ」

生産現場におけるムダは大きく8つに分けることができます。具体的にムダの種類を知ることによって、自分が行っている仕事のムダに気づくことができるようになります。

## 1. 不良・手直しのムダ

不良品や手直し品をつくって原価を高めてしまうことを指します。企業によっては、少しの不良は容認し、手直しも仕事の一つと考えているところもありますが、ものづくりの基本は「良品100%」です。

トヨタ式に「不良品を買ったお客さまにとって、不良率は100%」という言葉があります。常にお客さまに良品を届けるのが企業の責務であり、そのためには「良品100%」を目指すのがものづくりを行なう企業の務めなのです。

より良いものをつくっていくためには、「多少の不良はしかたがない」「手直しをすればいいだけのこと」と考えるのではなく、不良をつくることも手直しをすることも「ムダ」と考えて改善に取り組むことが大切なのです。

## 2. つくり過ぎのムダ

トヨタ式でもっとも警戒すべきムダが「つくり過ぎのムダ」です。

多くの企業は納期より早くつくることをムダとは考えません。しかし、実際には納期より早くつくるとは、今売れる数よりも多くつくることです。材料の先食いになるだけでなく、エネルギー代や人件費が余計にかかってしまいます。さらには、保管のための倉庫や作業をする人にも経費がかかってしまいます。つまり、つくり過ぎは新たなムダを生むことにつながってしまうのです。

「必要なものを、必要な時に、必要なだけ」と考えるようにしてください。

## 3. 加工そのもののムダ

工程の進捗や加工の精度には関係のない不必要な加工のことを指します。

仕事をしているとどうしても「慣れたやり方」を最善と考えがちです。たしかに長年にわたって続けられてきたやり方は「良いやり方」かもしれませんが、日に日に技術が進歩していく時代、常に最善とはかぎりません。慣れたやり方だとしても「もっと良いやり方は?」「どこかにムダはないか?」と問いかけることで、ムダに気づき、改善に取り組むことが大切なのです。